

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	高レジリエンス構造システム小委員会		主 査 名：高田豊文 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)		委員長名：塩原 等 主 査 名：高田豊文
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>ロバスト性や冗長性およびシステムの回復性を包括する概念として、レジリエンスが存在する。本小委員会では、高いレジリエンスを有する構造システムおよびその設計法について考える。特に、レジリエンスを考慮した建築構造設計の研究や設計事例をとりまとめ、現状分析と将来的な展望についての包括的な資料を公表することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度：構造物のレジリエンスを定量化する指標について調査研究を行う。 ・ 2 年度：前年度に引き続き調査研究を行い、可能であれば具体的な種々の形態を有する構造物モデルについて適用した結果を示す。 ・ 3 年度：前年度までの調査研究結果を、出版物として公表することを目指し、原稿を作成する。また、関連セミナーを企画する。 ・ 4 年度：前年度に引き続き原稿作成し、関連セミナーを開催する。 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：高田豊文 (滋賀県立大学) 幹事：山川誠 (東京電機大学), 寒野善博 (東京大学) 委員：浅岡泰彦 (大林組), 朝川剛 (東京電機大学), 磯部大吾郎 (筑波大学), 伊藤拓海 (東京理科大学), 竹脇出 (京都大学), 趙衍剛 (神奈川大学), 福田隆介 (鹿島建設), 中村尚弘 (広島大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2017 年度予算	110,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前小委員会による成果である 2016 年度大会 PD の内容を確認し、本小委員会の目的・位置づけを共有した。 2. 震災鉄骨骨組の補修後の終局耐震実験と補修法の解析的検討、損傷した鉄骨骨組の補修方法と補修後の崩壊モードに関する研究について、議論した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 十分に小委員を開催できなかった。